



414
A 158

第百六十一号

丑葉



六月二十三日「ジヤパンヘラルド」抄譯

「ジヤパンヘラルド」ノ記者ニ造

外國新聞ハホルモサニ在ル所ノ日本人ノ勤辭
 ラ記載セル書ヲ公布セシテ好メリ予モ亦政
 府ニテ此書ヲ公布セザルコトヲ大ニ怪シメリ予
 支那公文ヲ見ルニ支那在留ノ外國公使ハ都テ
 支那ヲ褒シ日本ヲ貶ス我政府ハ外國公使及ビ
 外國人ノ助言ヲ決シテ乞ハザリシヤ
 茲ニホルモサ征討ト外國人ノ為メニ國ヲ開ク
 一ノ奇ナル閑意アリ數月前ニ下ノ閑債金ヲ催

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



促シ之レヲ日本ニテ拂ヘルヲ以テ大ニ失望セ
ル外國公使アリ是レ此債金ヲ催促シテ若シ拂
ハザレバ則チ之レニ代フルニ國ヲ閉クテ以
テセント圖リシニ日本ニテ之ヲ拂ヘルヲ以テ
大ニ失望セシナリ

今我國支那ト和セズ穩カナラザル時ニ當リ國
ヲ閉クノ議ヲ起セルハ何等ノ故ナルヤ○我國
ハ導キニ由テ支那ト和セザルニ至リ而シテ我
國ヲシテ閉カシメントセシヤ

我國維新ノ乱ノ起リタル中立ち守り大君政

府ニ「トオニオ」ル船ヲ渡サズ然ルニ此度日本
ニテホルモサ征討ニ用フル船ヲ賣レルハ何等
ノ故ナルヤ予此等ノ件々ヲ質問セント欲スレ
共日本ノ貧書生タルヲ以テ其志ヲ遂クルヲ得
ズ且予福建ノ鎮臺ニ萬國公法ノ疑シキ処ヲ教
ヘンテ予希フ然シ予憶フニ我政府ノ諸大臣ハ
歐洲ノビスマルクノ如キ人ニ倣ヒ此征討ニ関
セル件々ヲ公布アル可シ

千八百七十四年六月二十三日横濱ニ於テ

日本人

○蝦夷地瀕海ノ中海嶺ノ生ズル處ニハ日本軍艦碇泊シ在リテ外國船ノ之ヲ獵スル者ヲ止メタリトノ風説アリ我輩思フニ是ハ軍艦ノ既ニ箱館ニ造數艦戻り来リシ者ナル可シ「アドフリル」^{チツセル}抄出ル

○電報 長崎千八百七十四年六月十二日 當月一日ヨリ三日迄ホルモサニテ戦争續キ日本兵ノ手負者死甚々少ナシ「ブ」^ブ族ノ村落ハ燒ケテ其人民散去セリ而メ又兵ヲ「ゴ」^ゴサコ「ツ」^ツ族ニ差シ向ケシガ是ハ既ニ降服シ今ハ敵地

ニ陣ヲ張レリ

六月二十三日「ジヤパン」ガゼット抄譯

ホルモサ征討兵琅瑯ニ上陸セシ由人甚々厚ク之ヲ遇シ陣ヲ張ル為メノ地ヲ賣與セリ我輩到着スルヤ直チニ襲撃セシ地ハ兎人七十人程住ナリ其中チ三十名ハ我彈丸ニ當リテ死セリ其中此地ノ酋長モ在リタリ其ハ疵ヲ受ケ其後遂ニ之レカ為メニ死セリ五月三十一日ニ「ブ」^ブ族ヲ打ツ可キ用意ヲナス可キ令下リ翌日朝七時ニ三聯隊「フ」^フコ「ト」^トヲ

出立シ又十時ニ三聯隊セキニテ出立シ又午後
五時ニ三聯隊出立セリ其翌日ノ朝六時ニ二聯
隊ヲクスカラ出立セリ而シテ此ノ如ク諸方ヨ
リ出立セル聯隊ニ六月ノ二日ノ夜或ハ三日ノ
朝ニ第一示シ置ケル地ニ著ス可キ旨ノ号令下
レリ

出立ノ日甚タシク雨下リテ川々ノ水益レ渡ル
ル甚タ危カリシト雖モ將校之レガ為ニ猶豫ス
ルヲナク川ヲ越エシガ其時兵士三名水ニ押シ
流サレ其中チ二人ハ救ハレシガ一人ハ溺死セ

三

リ殊ニ武具兵糧ヲ渡スル甚タ難カリシガ卒ウ
シテ無難ニ渡シタリ而シテ已ニ我軍ブータニ
及ビ「コス」族ノ住スル地ニ近ヅキタリ此ノ
種族ノ野獸ノ肉蕃薯牛乳ヲ以テ常ノ食トセリ
允テ此辺ノ地勢山多ク凹凸ノ地タルヲ以テ通
行難カク可シト思ヒシ所兵士隊ヲ整へ通行シ
夜ニ入りテ山上ニ至レリ此処家猪水牛蕃薯多
シ故ニ家猪ヲキテ殺シ蕃薯ヲ掘出シタリ
翌日モ亦山路ニテ其途中ニ土人森林或ハ岩蔭
ヨリ彈丸ヲ放發セリ之ガ為メニ我兵三四名

赤死手負アリタリ然レ共我兵進ム片ハ土人交
 リ我兵ニ抗ス可キ程集リタル者ニハ逢ハザリ
 シ終ニ「ブータン」村ニ着シ此村ヲ見ルニ住民皆
 既ニ散ジテ止リ居ル者ナキ故家屋ニ火ヲ放チ
 焼キ掃ニ又此時三人ノ十一歳許リナル一人ノ
 娘ヲ生取りタリ

我輩ノ通行セル所ノ種族ノ表ヲ左ニ記ス

族名	人数	酋長名	性質
ブータン	二百五十人	アロク	兇暴
サバリ	二百二十人	イサ	友愛

四

リカ

コスコス	百九十人	イソ子モト	兇暴
マンチツツ	百七十五人	カルトイ	友愛
カチライ	百六十九人	フーロイ	温和
パニニピー	百六十人	アオ	
パカロト	百五十五人		
サポット	百四十二人		
オスアント	百三十人		
ロホト	百二十六人	マモト	
チナキア	百二十人		
リヤニリエアン	百十四人	ヒナリ	友愛

テ法ヲ知ラズ	ライシニグ、シヨニ抄出	リタニ「コスコス」コワルツ等ノ諸族ハ租暴ニシ	ホルモサノ諸族ハ多クハ性質温和ナリモ「ブ	コワルツ	五十人	ピアラリン	兇暴
カントニ	六人	アサム	友愛	テキサ	五十二人	セニリン	兇暴
チニラソク	七十四人	トヒエトク	友愛	ヒュトゲキン	八十六人		兇暴
ゼカ	九十人	シンジオ	友愛				